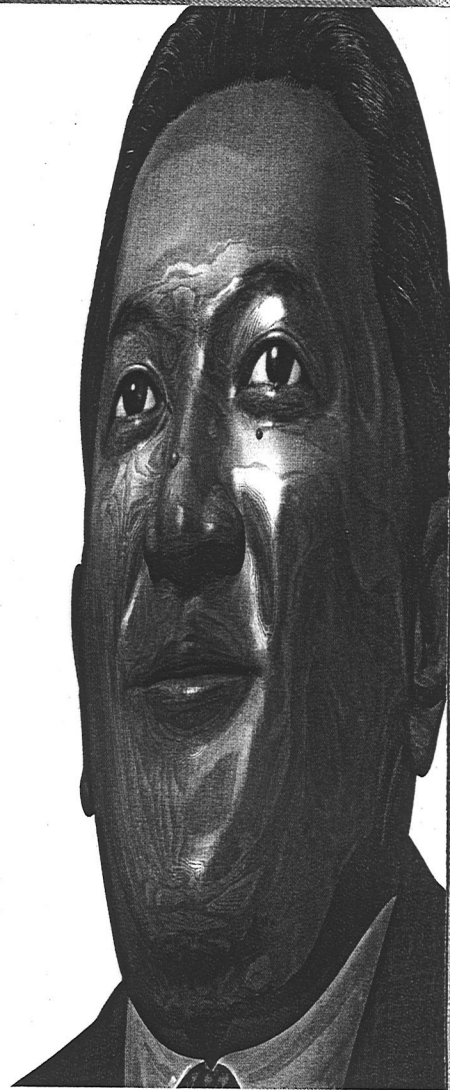




●週刊宝石 休刊までの
記者の告白
 ●東京近郊恐怖の物件を
アノ殺人事件が
起きたアパート
 ●茨城・水戸ミス梅城失踪
容疑者と
目された男
 ●出版界の暗部を解る
丸山実と
総会雑誌の時代
 ●幻のよど号犯罪国計画
重信房子、
意外な人脈図
 ●ニッポン隠れ里シリーズ
中九州で
見つけた
秘境
 ●DSJディスクカバー
平日お台場発
25時
vol.2

ISBN4-8130-0432-6

C9476 ¥552E



定価：本体552円＋税
 雑誌68452-32
 ©MILLION PUBLISHING INC. 2001 Printed in Japan

ダークサイドJAPAN
 2001 6
 ニッポンの暗部を歩くニードロジンプマガジン!!
 2001年6月1日発行
 発行所：(株)大井出版 〒162-0843 東京都新宿区天竺町66-14-2 大洋ビル
 TEL.03-5228-2881(代表)
 発行所：(株)ニードロジンプ出版(株) 〒162-0843 東京都新宿区春日町2-17 八重洲市会ビル
 TEL.03-5228-2881(代表)

田中康夫
 長年続いた
 モテモテデジリ



九州から
 韓国までの
 海底トンネルが!!

統一教会の
地下通路を密撮

ニッポンの暗部を歩くニードロジンプマガジン!!
 ©2001, MILLION PUBLISHING INC.
 ALL RIGHTS RESERVED.
 UNAUTHORIZED DUPLICATION IS
 A VIOLATION OF APPLICABLE LAWS.

2001 6

ダークサイドJAPAN
 THE DARKSIDE JAPAN

●「東京近郊恐怖の物件をアノ殺人事件が起きたアパート」
 ●「茨城・水戸ミス梅城失踪容疑者と目された男」
 ●「出版界の暗部を解る丸山実と総会雑誌の時代」
 ●「幻のよど号犯罪国計画」
 ●「重信房子、意外な人脈図」
 ●「ニッポン隠れ里シリーズ」
 ●「中九州で見つけた秘境」
 ●「DSJディスクカバー 平日お台場発 25時 vol.2」
 ●「九州から韓国までの海底トンネルが!!」
 ●「統一教会の地下通路を密撮」
 ●「ニッポンの暗部を歩くニードロジンプマガジン!!」
 ●「長年続いたモテモテデジリ」
 ●「田中康夫」
 ●「DSJ THE DARKSIDE JAPAN」
 ●「2001 6」
 ●「2001年6月1日発行」
 ●「発行所：(株)大井出版 〒162-0843 東京都新宿区天竺町66-14-2 大洋ビル」
 ●「TEL.03-5228-2881(代表)」
 ●「発行所：(株)ニードロジンプ出版(株) 〒162-0843 東京都新宿区春日町2-17 八重洲市会ビル」
 ●「TEL.03-5228-2881(代表)」

DSJ 潜入

総工事費10兆円、
全長230kmの大プロジェクト

アノ 統一教会が作った

幻の 日韓トンネル

呼子町の加部島にある「風に見える丘公園」から
対馬海峡を望む。こんなところに
トンネルを掘ろうなんていう野望は尋常ではない。

文・写真●泉水什器郎(長谷川組)

「日韓トンネル」に関する調査・研究などを行
うというくだりである。
そして、後に「FOCUS」(2000年
10月18日号)に掲載された「統一教会が金集
めで掘った「日韓トンネル」というタイトルの記
事は「現地に行ってみよう」という気分を作
るために十分な材料となった。

「FOCUS」によると、「日韓トンネル」
は、佐賀から豊岐、対馬、韓国の巨済島を経
由して、釜山までの230キロを海底トンネ
ルで結ぶというもので、その長さは青函トン
ネルの約4倍、総工事費10兆円の大プロジェクト
で、完成予定は20年後。当時(88年)、掘ら
れていたのは調査斜坑で、220メートルほ
ど掘り進められているが工事はストップして
いると記されている。

しかし、統一教会といえは文鮮明教祖によ
る、「靈感商法」で社会的な非難を浴びた宗
教団体だ。正式な取材申請をしても、何時に
なったら返事をもらえるか解らない。という
ことで、最初からゲリラ戦を挑むことにした。
正月なら誰もいないハズだから、「トンネルの
入口くらいは見ることはできるだろう」とい
う判断である。

松西町で聞き込み

「あのトンネルならこの近くにありますが」

某月×日 東京・福岡 天気：くもり

「本当に「日韓トンネル」なんかあるの？
でも、面白そうだから行ってくれない？」と
言われたのは、去年の12月のことだった。編
集部員が、「どこかに面白いネタないかねえ
」というので、「日韓トンネル」なんかど
うですか？」と言うと、あっさりと九州行き
が決まってしまったのだ。

日本と韓国を結ぶ 秘密トンネル

そもそも、「日韓トンネル」の存在とい
うものを知っていたわけではなかった。だが、
去年の10月頃に、JRの時刻表を眺めながら
「地図旅行」を楽しんでいると、意味もなく
青函トンネルや英仏トンネルのことがアタマ
に浮かんできた。

どちらにも行ったことがあるので、現地の
風景がフィードバックして来たのだろうけど、
同時に、「日韓トンネル」というものは存在
しないのだろうか？という疑問がアタマの
中をよぎった。

それからは、「日韓トンネル」が本当にあ
るのではないかと「という疑念がアタマから
離れなかった。Yahoo!で検索してみると
10件以上がヒットしてしまったのだ。

その中でも興味を惹かれたのが、文鮮明の
提唱を受けて、統一教会の特別公共部門とし
て設けられた国際ハイウェイ建設事業団が、



日韓トンネルの工事現場の入口には McCOL の自動販売機があった。怪しき怪増！

たね。でも、まだ先の話でしょ。トンネルなんかどこにもありませんよ！」なんて言われてしまふ始末だったのだ。

でも、「FOCUS」には写真が載っていたのだから、何もないワケがない。機内には、正月の帰省ラッシュを避けて、早めに移動しようとしているサラリーマンや、子ども連れのヤンママでかなり混雑している。

某月×日 福岡→唐津→鎮西町→唐津 天気くもり時々晴れ

博多駅前のビジネスホテルをチェックアウトして、大手のレンタカー会社で軽四輪を借りて「日韓トンネル」に向かう。さすがに緊張する。ハンドルを握りながら考えることといえば、「本当にトンネルを見つけれられるのか」とか、「誰が情報を持っているのだろうか」ということばかりだ。

イヤハヤ、いよいよ九州に行くとなると少しは緊張するものである。去年の12月に編集部員に「FOCUS」を見せながら、「なんとかが撮れますよ。800mmクラスの超望遠レンズを持っていますから」と言ったのはよかったけど、もしも、何も撮れなかった場合は大変だ。

唐津市に電話をしたときに、いい感触を得ることができなかった。一気に鎮西町まで走って鎮西町役場の商工観光課を訪ねると、奥の方から優しいような50代の男性が出て来て、「ああ、あのトンネルなら、この近くにありますが」と言って詳しい説明をしてくれた。意外にも、あっさりといトンネルの場所が解ってしまったので拍子抜けしてしまったのだが、観光課の職員に言われたとおりクルマを走らせると、名護屋中学校の角を右に曲がってから数百メートル走ったところに、「名護

屋調査斜坑現場 極東開発」という立て看板があるのを発見した。

McCOLの自動販売機を機目にして入口に侵入

メインゲートの入口には、ツタが走り回っているMcCOLの自動販売機があるから、ここは統一教会の所有地である。それに、メインゲートの向こうには、トンネルの入口がポツカリと口を開いているではないか。

ワタシは、3〜4回メインゲートの前を往復して周囲の様子を窺った。その結果、メイ



「無断立ち入り禁止」と書かれている。前もって取材申請を出せば中に入ることができるのだろうか？



流れている工事現場。中断されてからしばらく経っているようだ。

ンゲートから名護屋中学校側へ下ったところにある作業場と、メインゲートの向こう側の「現場」には人がいないことを察した。こうなれば、「潜入」の準備をすることができ、軽四輪を離れた場所に隠して下見に行く。

すると、メインゲートから50メートルくらい上がったところにある通用門の奥にある事務所に、埃の被った郵便物が4〜5日分溜まっているのを見つけた。それに、事務所の蛍光灯も24時間着けられているようなので、「取材」をかけるには絶好のタイミングだ。

事務所の前からあたりを見回すと、東京ドームがスッポリと入ってしまうような広大な土地にトンネルなどの施設が、造られていることが解る。正面に見えているのは、小高い山の斜面に掘られたトンネルの入口があって、そこからまっすぐに伸びた2本のレールが、鉄橋を経由して反対側の斜面の手前まで来ている。

鉄橋の上には小屋があるが、そこからは複線になっていて、途中にオレンジ色の車両が停まっている。

そして、鉄橋のこちら側は、パワショベルなどが並ぶ重機材などの置き場や、旋盤などの工作機械が置かれている工場、それから、トンネルの建築に使われると思われるR型鋼材の置き場がある。

だが、今日は無理をしないで、トンネルと鉄橋を「取材」することにした。さっそくクルマに戻って、カメラに広角ズームレンズをセット。それから、標準レンズにストロボ、フィルムを入れた迷彩色のポーチをカバンの中に放り込む。迷彩色のポーチは、登山用品店で売っていたものだが、今回はフィルム入れとして使用した。「FOCUS」によれば、工事に参加している技術者たちは、統一教会に入信しているというから、彼らに見つかった場合は「拉致」される可能性がある。

もし見つかったときは、「自分は鉄道ファンなので軌道を見に来たんです。今、全国の廃線跡や専用線の写真を撮っているんです」という言い訳をすることにした。フィルムを「没収」されることだけは避けたかった。ということで、「拉致」されたときには、迷彩色のポーチを草むらの中に放り込むことを考えていたのである。そして、「釈放」されたときは、夜になってからでも取りに行くことにしていた。

難所が生いざり工事は中断されたようだ

ワタシは、事務所の横の斜面から鉄橋の上にあがり、トンネル方向に向かって歩いて行きながら、回りにあるものを片っ端から撮り始めた。すると、脳からアドレナリンがドバ

ドバと噴出してくるではないか。人に見つかるのは怖いのだが、ギリギリの状態で撮影することが、こんなに気持ちのいいものとは思わなかった。ワタシは、医者ではないからアドレナリンが噴出したときにどのような気分になるのかは知らない。

しかし、妙にリラックスしてくると、トンネルの脇にある斜面に座り、周囲の風景を楽しみながらのんびりとフィルムを整理をしていた。そして、気持ちのいい風を浴びていると、カメラを片手に日本中を旅行していた頃が思い出された。

まだ学生だった頃のこと、北海道に遊びに行くときに、青函トンネルの工事現場に行っただが、その日は、工事が休みだったのでトンネルの入口を見られなくてガッカリしたことがある。

しかし、今回は、民間による調査斜坑とはいっても、「日韓トンネル」という巨大なプ

ロジェクトが行われている(?)「現場」にきているワケだ。工事に参加している技術者たちは、青函トンネルを掘っていたのだから、ちょっとした親しみも感じられる。

で、いよいよ念願のトンネルへと「潜入」ということになるのだが、JR在来線の複線区間程度の大きさがあるトンネルの中に入ると、30m位先に数両の有蓋車が停められているのを確認した。

しかし、その奥は真っ暗になっているので、どの程度掘り進まれているのかは見当がつかない。トンネルの傾斜もかなりキツくて、ボーリングのボールを転がしたら奥まで行ってしまうような雰囲気だ。鉄橋上にある小屋の前は、トンネルの入口から2〜3メートルほど入ったところまで雑草が生えていることや、レールが錆びていることを考えると、かなり前に工事が中断したことが窺える。

しかし、そのような状況にもかかわらず、

トンネルのメンテナンスはしっかりとされていて、このままレールを敷いたら列車を走らせることができそう。ワタシは、アドレナリンが脳に廻りきっているせいか、ゆつたりとした気分が撮影することができた。

そして、有蓋車のところに行こうとする、トンネルの奥に向けられているモニターカメラがアタマの上にあることを確認した。おそらく、使われていないと思われるが、離れたところにあるモニターに映し出されることのないので、奥に行くことは止めることにした。そこで、翌日の下見をかねて工場の方に戻ると、工場の屋根の下にあるサーチライトが点灯していた。おそらく、自動で点灯するようになっているのだろう。時計の針は、16時を少し廻ったところだ。

何も予定が書かれていない ホワイトボード

某月×日 唐津→鎮西町→唐津 天気：くもり時々晴れ

唐津市内のビジネスホテルをチェックアウトして「現場」へと直行する。昨夜、焼肉を食べながら考えたのだが、昨日はかなりの成果があったのではないだろうか。

何と言っても、メイン・シヨットであるトンネルの写真は押さえたのだ。郵便局から撮影済みのフィルムを編集部に送りだして、「現

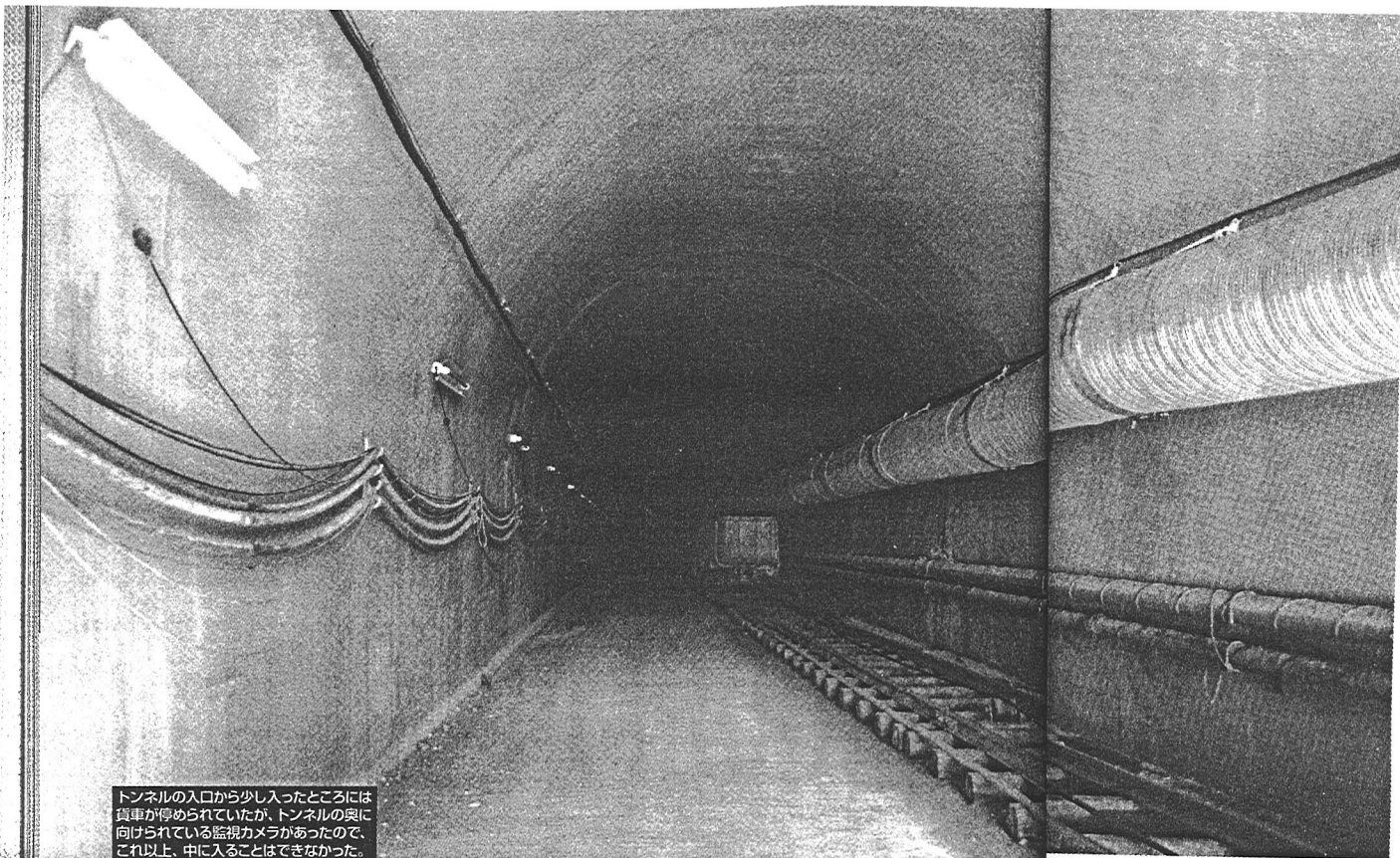
場」へと向かうことにする。

さっそく「現場」に着くと、昨日、帰るときに細工しておいた箇所をチェックする。メインゲートにかけられている錠前は、「異常なし」。事務所に通じる通用門に立っかけておいた古タイヤも倒れていないから、「異常なし」。それから、通用門から事務所に通じる道にも新しいタイヤ跡はない。もちろん事務所の郵便物には埃が被ったままだし、事務所の蛍光灯も点いている。

さて、今日の目的はというと、昨日撮れなかったところを撮影することだ。しかし、今日の滞在時間というものはあらかじめ決めておいた。それは、どんなにシャッター・チャンスがあっても、1時間を超えて滞在しないということである。深追いをすることはキケンだからである。

で、2回目の「潜入」は、昨日と違うスタイルで行なう。軽四輪を事務所の前に停めておいて「取材」するのだ。もし、怪しい人間だったら、おかしい態度を取るだろう。しかし、突然やって来た訪問者が堂々としていた場合はどうなるか? 相手はどのような対応をとったらいいか解らないハズだ。ワタシは、軽四輪を事務所の前に停めることで、「正当」な理由で訪問しているという状況を作った。

そして、事務所とトンネルの間にある工場や、パワーショベルなどが並ぶ重機材置き場などの「取材」を始めた。



トンネルの入口から少し入ったところには、真車が停められていたが、トンネルの奥に向けられている監視カメラがあったので、これ以上、中に入ることはできなかった。

まず、パワーシヨベルなどの前に置かれて
いるR型になった鋼材の写真を撮りまくる。
おそらく、これらの鋼材は、トンネルを掘り
続けていけば使われていたものだろう。

しかし、工事が中止されたことよって放
置されているようだ。鋼材も真っ赤になるほ
ど錆びている。そして、工場に入ってから
目の前にあるものを片っ端から掘った。選ん
でいたら、時間がなくなってしまうからだ。
ただし、どんなに急いだとしても、工事が
中断しているということが解るようなカット
を撮らなければならない。何も書かれていな
いホワイトボードを見つけたとき、統一教会
がカネ集めのために始めたプロジェクトが、
ストップしてしまったことを証明する材料に
なると思った。

何と誰でもないはずの トンネルの奥から報告か!!

「これでもかっ」というほど写真を撮って
時間をチェックすると、50分という時間が経
とうとしている。この時点で掘れていないと
ころはトンネルの奥に停められている有蓋車
と、トンネルの入口の上にある板場だけで
し。しかし、板場を「取材」するには時間が足
りない。板場を下見することも考えたが、嫌
な予感があるので止めることにする。そう
なると、狙いはトンネルの奥に停められている

有蓋車だ。

大胆にも軽四輪をトンネルの前に
廻して、トンネルの中にある蛍光灯
などの電気類や表示灯をチェックし
に行く。すると、昨日は点いてい
なかったと思われる裸電球が点いて
いるではないか。それに、闇の向こう
から「コー」という音が聞こえる。
さすがに自分の五感を疑ったが、
トンネルの向こうで何か動いている
ことは確かだ。カメラには、レン
ズとストロボがセットされているの
で、「行くか。止めるか。それと
も、「捕まるつもりで撮って、捕ま
ったら何らかの方法で逃れるか？」
というシミュレーションが脳裏に
浮かんで消えて行く。

おそらく奥の方、どこかで通風機
でも廻っているのだろうけど、この
状況でストロボを焚くのはキケンだ。
トンネルの奥に人がいたら洒落にな
らない。しかし、写真を撮るのは一
瞬だ。走って行って約27秒。ストロ
ボを3発焚くとして7〜8秒。走っ
て戻るのが約27秒。すべての行動を1分強で
終わらせれば逃げることは可能だろう。しか
し、今日撮った写真と、有蓋車の写真のプラ
イオリティーを比較することにした。
「んんんん……。やっぱり、今日撮った

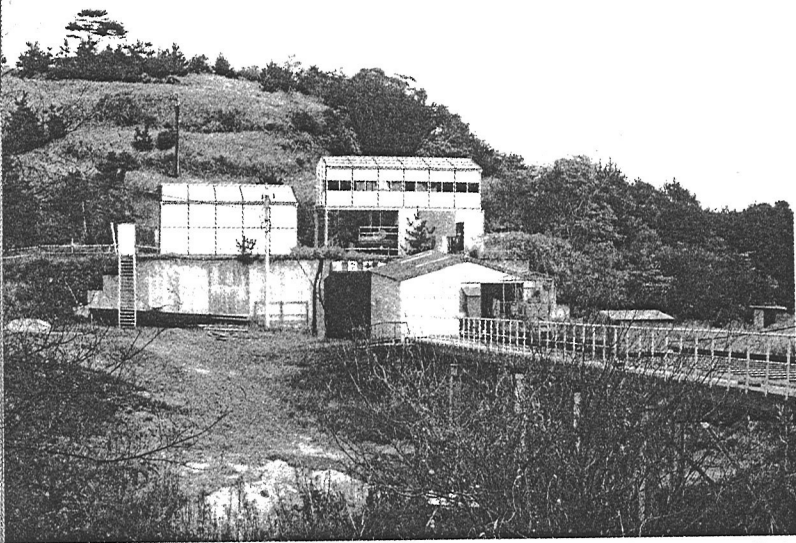


雑然とした工事現場。
工事は中止されているのか。

写真は持って帰らなければならない!!」
そう決めると、軽四輪まで走って行って、
カメラを助手席にブン投げて、ゲートまで思
いっきりクルマを飛ばした。もう、逃げるだ
けでいいのだ(笑)!

昨日と違う現場の様子 敷地内の門が開いている

某月×日 唐津→鎮西町→唐津→福岡 天



気くもり時々晴れ

とにかく鎮西町に来てからおかしな天気
が続いている。こういうコンディションが、イ
チバン写真が撮りにくい。キツチリと合わせ
た露出も、太陽が出ることによって変わって
しまうからだ。このように
他人の土地に「潜入」して
いるときはストレスが溜ま
る。でも、今日は昨日撮る
ことができなかった、トン
ネルの奥に停められている
有蓋車を撮るのが目的だか
ら、シビアナ露出測定をす
る必要がない。「ズバン、
ズバン」とフラッシュを焚
けばいいのだ。

しかし、愛着を感じ始め
ていた「現場」に來ると異
変を感じた。メインゲート
にかけられた錠前は、20度
くらい時計方向に回転して
いるし、作業場の入口の門
も開いている。こうなっ
たら、最終的な判断は編集部
員に任せることにして携帯
をコールすると、「あまり
無理をしなくていいです
よ。昨日までに撮ってもら
った写真で充分にページが

組めるはずですから」という判断。ちよつと
物足りなさを感じたが、ここで捕まったら編
集部に迷惑をかけるだけだ。「現場」の前を
往復して、福岡に戻ることに決めた。バイバ
ーイ、愛しき「日韓トンネル」よ。また、い
つか逢おうぜ〜〜〜っ(笑)!!

